

事業区分	文化芸術事業		鑑賞事業		
事業名	コンドルズ 日本縦断超時空ツアー2014 Time is on My Side 鳥取米子スペシャル公演				
目的・内容	公演のユニークさ親しみやすさを生かしダンス公演鑑賞機会の提供及び新規鑑賞者の開拓を目指す。また、海外でも活躍するダンスカンパニーの公演をダンス活動者の多い西部で行うことで、西部を中心とした県内のダンス活動の活性化を図る。 [内容] 海外でも活躍するダンスカンパニーの公演。ダンスのみではなく、演劇、コント等を交えたエンターテインメント性が高く、ダンス初心者でも親しみやすい公演を行う。 [プレ事業]「コンドルズ ダンスワークショップ」1/25 ふれあいの里(ワークショップ)、コンベンションセンター(ダンス発表/とりアート西部事業) プロの舞踏家によるダンスワークショップを行うことで「ダンス」に対する興味関心を引き出し、新たな「ダンス鑑賞者の開発」を図る。また、25日実施される「とりアート」西部地区事業の「きらめきダンスコンテスト」内でワークショップの発表を行うことでとりアート西部との連携を図り、より幅広い広報と鑑賞者の一層の増大を目指す。参加者:16名(見学者3名)				
開催日時	平成26年2月15日(土) 開演18:00				
会場	米子市文化ホール メインホール				
入場料 (友の会・団体)	一般 5,000円 (3,000円)	Withシート/ダンス割 4,500円	友の会 4,000円	高校生以下 2,000円	
集客状況	入場者数	503名	設定席数	648席	集客率 78%
事業費状況	予算額	収入 2,700,000円	支出 4,157,000円	収支比率	65%
	決算額	収入 2,222,350円	支出 4,542,324円	収支比率	49%
来場者アンケート (主なもの) 回答者数 224名	回収率45%、満足度88%、新規顧客獲得率68% ・お客さん楽しませたい！という気持ちがかつてくる素晴らしく楽しい舞台でした。コンドルズとお客さんの笑い溢れる温かいステージに大満足です。 ・どんな内容のものなのか全く何も知らずに来ましたがすごく楽しめました！！全力で本気の茶番、かっこよかったです！！ ・新感覚のエンターテインメント！！ ・ほんとに楽しかったです。笑わせるかってスゴイ！！元気でました！！				
1次評価 (内部)	[成果] ・ユニークな公演を実施することで、普段とは異なる客層の方に来場していただいた。その一方で、友の会会員の方など、継続的な鑑賞者の方にも来場いただき、舞台公演の多様さを実感していただいた。 ・プレ事業のワークショップでは、鑑賞者の拡大のほかにも、ダンス活動者の拡大にもつながった。またプレ事業でのワークショップにおいて、とりアート西部と連携できたことは財団がとりアート事務局を持つメリットを生かすことができた。そして、プレ事業から本公演までの連携も集客も含め大きな成果があったと思われる。(とりアート来場者の取り込み等) [課題等] ・公演内容をより具体的に伝えることが出来なかったため、「思っていた内容と異なっていた」という意見があった。 ・関東が豪雪のため、出演者の移動が、当日慌ただしいものとなった。このような事態のために中止となった際のマニュアル、対応などの事前準備が必要である。 ・米子市の財団(文化ホール)との共催であったが、特に米子財団の主催するダンスコンテストとの繋がりや連携(ダンス割等)が十分に達成できなかったことの検証は今後連携していくうえでも必要であろう。				
2次評価 (財団評議員)	[量的成果] ・テレビなどで活躍しているグループでジャンルにはまらないダンスグループの公演で、なかなか観る機会がないが、もう少し来場者があっても良かったのでは。CMやチラシなどいろいろなところでPR活動はされていたように思うが、鑑賞者の年齢層が高かったように思う。 [質的成果] ・高校生や中学生の参加が少なく、ダンス人口の多い西部地区で少し残念に思いコンドルズ・近藤さんというところが公演もそうだがもう少し伝わりきれいでなかったのかもしれない。 [課題等] ・地方ではプロの公演をなかなか観る機会がすくないので、ダンスのステージ公演はなかなか難しいかもしれないが継続して実施して他地区でも実施してほしい。また、各地でワークショップも展開できると参加者も鑑賞者の増加にもつながるのではないかとと思う。 ・当初ターゲットとされていた10・20代の来場を期待するには、チケット代5,000円は厳しいのではないだろうか？ターゲットを絞ったチケット料金の工夫がさらに検討されてもいいと思います(ペア割りやグループ割引を年齢をしばって実施するとか？)。 ・コンドルズのようなチームは、ターゲットを幅広く持てばよいのではないかと。 ・他の事業でも感じるのだが、プレ事業が本公演に繋がる事業に成り得ていないのを改善する必要があると思う。 ・こういった公演を観ると、「ダンスをしてみたい」と少なからず思うのではないかと。その後のダンス人口を増やす取り組みにつながるなど、双方にとって意味のある連携(ダンス愛好家やスクールなど)が必要だと思ふ。				
今後の対応、 取組状況	・今回は公演の直前に行われたダンス公演と連携を行ったが、それに加え公演後に実施されるダンス公演との連携など、公演を行ったのちの継続的な情報の提供等も必要である。 ・本公演特有の明るさや、新しさが、西部地域にあっていなかったことが、当日の会場の雰囲気から伝わってきたので、今後の事業選定の参考にしたいと思う。 ・とりアートや米子市文化財団との連携を今回行ったが、それがなければ口コミ等の来場が少なかったと考えられる。今後も館を持たない西部地区では、より地元の団体・活動者との連携を行っていく必要があると感じた。 ・鳥取県西部における、特にヒップホップ系のダンス人口は多く、活動も盛んである。鳥取県における文化芸術振興の重要なターゲットであるが、そのアプローチの仕方について、我々財団の事業協働推進者(宅配便事業講師等)や地域での実践者・団体・指導者との意見交換も必要と感じる。 ・ダンス個別のジャンルにとどまらず、表現活動としてのとらえかた(演劇等も含めて)も財団として持っておくべき感覚であると感じている。本公演のプロジェクト主宰の近藤氏は演劇分野においても非常に評価の高いアーティストであり、総括してコミュニケーションという視点でとらえるべきかもしれない。				